

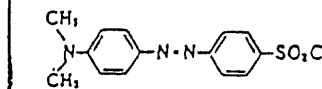
Dabsyl-Cl を誘導体化試薬としたアミノ酸分析

ダブシルクロライド (Dabsyl-Cl; 4-ジメチルアゾベンゼン-4'-スルホクロリド)

を用いたアミノ酸のプレラベル誘導体化法は、

- ① 誘導体化後のアミノ酸が安定である
- ② 一級及び二級アミンと反応する
- ③ 可視吸光波長(430nm)のためにベースラインが安定で夾雑成分の影響を受けにくい、等の利点があります。今回、ダブシル誘導体化アミノ酸の誘導体化法、測定条件について検討しましたので報告します。

Dabsyl-Cl



[測定条件]

装置: CCPM-II, AS-8020, CO-8020, UV-8020, SC-8020,
 カラム: TSK gel ODS-80TS (4.6mm ID×15cm)
 温度: 40℃
 溶離液 A液: 10mM クエン酸緩衝液 (pH 6.2, 75mM 過塩素酸ナトリウム含有)
 B液: アセトニトリル/水=9/1
 グラジエント: min 0 25 35 37
 %B 20 45 70 100
 検出: 430nm
 注入: 20μl

[誘導体化操作]

5mM ダブシルクロライド溶液 20μl とアミノ酸溶液 20μl を混合し、70℃で20分加熱。反応終了後、溶離液A液を300μl 加え、カラムに注入する。(5mM ダブシルクロライド溶液の調製方法: ダブシルクロライド 1.6mg をアセトン 1ml に溶解)

